

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	聖隷こども発達支援事業所かのみあ富丘		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 1日		2026年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1	(回答者数) 1
○従業者評価実施期間	2025年 10月 1日		2025年 10月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○訪問先施設評価実施期間	2025年 10月 1日		2025年 10月 1日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	1	(回答者数) 1
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 27日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	訪問先の意向により沿えるよう、効果的な支援内容の提案につながる多職種での直接支援の実践が行えている	多職種訪問の体制ができており、支援内容に沿いながら園の先生方にも事業所の環境や児発での支援内容を知っていただく機会を適宜設けている	多職種訪問の体制を維持し、園状況やおこさまの状態に則した、職種(保育士、児童指導員、看護師、作業療法士、理学療法士、介護福祉士等)による支援体制を柔軟に構成する
2	より少人数での活動集団を構成しており、生活レベルでおこさまの状況に合わせた環境づくりを柔軟に行いながら、個の支援を在籍園につなげている	食事や排泄面を含む、おこさまの生活レベルでの状況の共有(本人の姿、直接援助の必要度、支援内容や程度、環境づくりなど)について都度の訪問でお伝えしている	在籍園の理念や教育・保育目標、学級経営案とクラス担任・補助教諭の思い、クラス環境や在籍園児の状況等も引き続き共有させていただき、園環境にて効果的で実践可能な支援内容を協議しつつ、直接支援を通して一緒に取り組んでいく
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問園数が少なく、訪問支援の効果測定が十分に行えていない	重症心身障がいの状況にあるおこさまや医療的ケアを必要とするおこさまの他、個別のニーズの高いおこさまの生活や事業所活動支援に重きを置いているため、職員配置は国の基準を十分満たしていても、訪問支援にあたる職員数を今以上に確保できないと考えられる	・訪問先からの評価を時期を問わずいただく機会や、複数名の先生からご意見をいただく機会を設ける ・訪問数を増やすため、訪問時間や頻度の調整を試みる
2	災害時を含む緊急時対応訓練や不審者対応訓練などの訪問時行動訓練が未実施	訪問園との各種マニュアルの共有ができていないこと、有事を想定した机上での協議や確認もできていないことが考えられる	・訪問園の緊急時対応マニュアルや避難経路の確認などを行う機会を設ける ・訪問園での避難訓練等実施日に直接支援や情報交換日をあてる
3			